

基礎知識編

子どもの発達・家庭教育の目的・親の役割

1 子どもの発達

- (1) 発達とは、その中身は、大切なことは
- (2) 乳幼児の発達のあらまし
- (3) 小学生の発達のあらまし
- (4) 中学生・高校生の発達のあらまし
- (5) 発達をめぐる問題とその予防

2 家庭教育の目的と親の役割

- (1) 家庭教育の目的
- (2) 子どもに対する家庭教育は親の義務
- (3) 家庭教育には父性機能と母性機能のバランスが大切
- (4) 求められるお父さんの家庭教育参加

3 静岡県の教育

1 子どもの発達

ここからは、さらに自信を持って家庭教育に望んでいただけるよう、理解編や実践編の裏づけとなる基礎知識編です。

(1) 発達とは、その中身は、大切なことは

発達とは

生涯にわたる心や体の構造や働きの変化のことです。言葉を覚えるのも発達ですし、反抗期を迎えることも発達です。発達には、個人差があります。

発達の中身は運動能力・知力・感情・社会性・道徳性など

人間の発達には、身体、運動能力、知力、感情、社会性、道徳性など、人間の心や体に関するすべての面の変化が含まれています。

言いかえれば人間の発達には、言語的能力・論理的能力の発達だけでなく、運動の能力・絵画や音楽の才能・他人の感情を理解する能力・人間関係を上手にやっていく能力など様々な能力の発達が含まれており、人間の能力は、いわゆるペーパーテストで測れるような、目に見える学力だけでは評価しきれない多種多様なものであることを理解することが必要です。

発達で大切なことは基礎・基本と子どもの個性

基礎・基本とは、自立したひとりの人間として、社会生活を送るのに必要な学力(読み書き・計算の能力など)、社会性、道徳性のことです。

親は、子どもが社会生活を営むのに必要な基礎・基本を身につけた後は、勉強でも、技能でも、芸術でも、スポーツでも、その子どもに合った道で自立できるよう、子どもの個性を伸ばすことを考えてあげましょう。

親の勝手な願いを子どもに押しつけるのではなく、子どもの心と向き合うことで、子どもの夢や才能は大きく伸びていきます。



【脳から見た人間の発達】

脳の発達を知ることが家庭教育の裏づけともなる

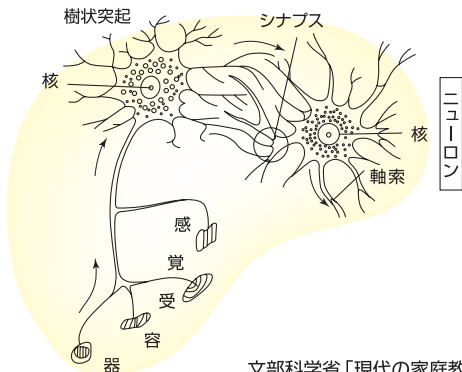
人間の発達は脳の発達でもあります。脳の発達を理解しておくことは、裏づけを持った適切な家庭教育を考える上で大切です。

人間らしい心を持つにはニューロンのネットワークの発達が必要

脳は様々な刺激を受け、目的にかなった人間の行動を可能にする器官です。人間の脳の場合、大脳新皮質と呼ばれる部分が、他の動物と比べて、大きく発達しているのが特徴です。

また、脳は、「ニューロン」と呼ばれる神経細胞の単位からできており、これが信号や情報を伝えることによって、本来の働きをします。

【ニューロンの模式図】



文部科学省「現代の家庭教育」より


脳の発達とは、このニューロンがネットワークを形成することです。善悪のけじめをつけ、適切な我慢ができ、礼儀正しく行動できるのもこのネットワークがあるからです。

私たちは、脳の中の理性・創造・企画等ニューロンのネットワークに関する働きによって、欲望を適度にコントロールし、それを勉強の喜び、仕事の喜び、創造の喜びといった自己実現の喜びに置き換えて、人間らしく生きることができます。

もし、子どもの脳に、適切なニューロンのネットワークが育っていないと、やる気が起こらず、何らかの拍子に抑えている力が外れた時に突発的に興奮が飛び出して、いわゆる「キレル」ということにもなります。逆に適切なニューロンのネットワークが強くたく育っていくと、外からのストレスの影響を受けにくくなります。

ネットワークの形成には豊かな自然体験や社会体験が必要

脳の中のニューロンが正しくネットワークを形成するには、豊かな自然体験や社会体験が必要です。特に身近な親子のコミュニケーションは、非常に重要です。逆にこうした体験がなければ、適切な社会生活を送るためのネットワークができにくくなります。



このように子どもの健全な発達には、脳の発達が必要であり、それにはニューロンのネットワークを形成させる、豊かな自然体験や社会体験(特に親子のコミュニケーション)が必要なのです。

人間の発達については、乳幼児期・児童期・青年期・成人期・高齢期といったように、いくつかの発達段階に区分されます。

(2) 乳幼児の発達のあらまし

乳幼児期（0歳～6歳ごろ）は、一生の中でも著しい心や体の変化が見られ、脳の発達や人格の形成において最も重要な時期です。発達の大まかな様子を学びましょう。

乳児期（0歳～1歳ごろ）の発達のあらまし

- 人の語りかけに反応するようになります。
- 手や足の動きが活発になります。
- 保護が必要な時です。

幼児期前期（1歳～3歳ごろ）の発達のあらまし

- 歩くことができるようになります。
- 言語を覚え、少しずつ使えるようになります。
- 愛されていることを感じるようになります。
- しかられたことがわかるようになります。
- しつけを始められる時期です。

幼児期後期（3歳～6歳ごろ）の発達のあらまし

- 自由に動き回れるようになります。
- 一人で食事ができるようになります。
- おもらしをしないようになります。
- 日常の言葉が話せるようになります。
- うれしい、悲しいなどの感情表現が豊かになります。
- 友達と遊ぶようになります。
- 自我が芽生えて、反抗期を迎えます。

(3) 小学生の発達あらし

児童期に区分される小学生のころ（7歳～12歳ごろ）は、おおむね次に示すように、心身の機能が発達し自我意識の高まりが見られます。

また子どもの行動範囲が広がり、周りの人たちの影響を強く受ける時期でもあります。

身体・運動能力の発達

- 身体のバランスをとることが上手になります。
- 運動能力が順調な発達を示すようになります。

知力の発達

- 言語生活が豊かになり、好奇心や知識欲が旺盛になります。
- 具体的な物事ならば、筋道を立てて考えることができるようになります。
- 児童期の半ば頃からは、形式的・抽象的なことでも、徐々に理解できるようになります。

感情の発達

- 感情の表現の仕方が、だんだんその場に適したものになっていきます。

社会性の発達

- 社会参加への強い欲求が出てきます。
- 様々な集団への所属欲求が出てきます。

道徳性の発達

- 児童期の前半は、模倣（まね）、習慣、暗示（指導）によって与えられた道徳に従います。
- 児童期の後半は、かなり道徳的判断ができるようになりますが、それでもなお、周囲に動かされやすい状態は続きます。

(4) 中学生・高校生の発達のあらまし

中学生、高校生の時期は青年期前期と中期にあたります。この時期は思春期とも呼ばれ、大人でもなく、子どもでもない不安定な時期です。心は、広がりつつある新たな世界への期待と、生き方や将来への不安との間で揺れ動くころです。

また、心身の機能が発達し、自我意識の高まりが見られます。

具体的には次のような発達が見られます。この時期特有の、子どもの姿と心を理解しましょう。

身体・運動能力の発達

- 男子は筋肉が発達して、がっちりした体格になります。
- 女子は肩に丸みを帯び、乳房が発達します。

知力の発達

- より高度な言語を使い、形式的・抽象的な思考をするようになります。

感情の発達

- 親から心理的に離乳し、反抗的な態度も見られます。
- 非常に不安定で、孤独感や無力感に陥ることもあります。

社会性の発達

- 性的成熟により、性意識が発達します。
- 同年齢の仲間たちとの交友により、社会的役割意識を持つようになります。

道徳性の発達

- 他の人から言われるのではなく、自らの自律的な動機によって、道徳的判断をし始めます。

(5) 発達をめぐる問題とその予防

子どもが健全に発達していくことは、すべての親の願いです。しかし、現実には、子どもの非行などの問題行動が発生しています。

様々な原因と予防のポイントについて考えましょう。

簡単に言えば、①不適切な食習慣、父性の欠如、過保護、過干渉、親子のコミュニケーション不足などの原因があって、②家庭、学校、地域社会などがその役割を上手に果たせなくなり、③結果として子どもの非行などの問題が生じます。家庭では、最初の様々な徴候を見逃さないことが、効果的な予防につながります。

乳幼児期においては、親のイライラ、スキンシップの不足、過保護、過干渉の結果が、子どもの腹痛、吐き気、下痢、食欲不振、めまい、頭痛、発熱、過食、不眠、指しゃぶりという症状に表れることがあります。

学童期や思春期には、心身の不調を訴える、ちょっとしたことに過度に反応する、周囲の人に攻撃的になるなどの表れを見せることがあります。

こういった子どもの徴候を普段から見逃さないことは、問題に早期に対応する意味でもとても大切です。

2 家庭教育の目的と親の役割

(1) 家庭教育の目的


家庭教育の目的 「健全な自我の確立」

子どもが人格を完成していくためには、大人になるまでに健全な自我の確立を図る必要があります。自我とは、自分がおかれている状況を把握したり、自分の間違いや正しさに気づいたり、自分の感情をコントロールしたりする、自分に関する意識です。

乳幼児期、児童期、思春期における家庭教育の目的は、それぞれ、「健全な自我の芽生え」「健全な自我の発達」「健全な自我の確立」を図ることにあります。

(2) 子どもに対する家庭教育は親の義務

子どもの将来は親によって大きく左右されます。子どもの人格の完成を目指し、立派に家庭教育を行うことは法律（民法）で親に認められた権利であると同時に、親に課せられた大切な義務です。



そうか家庭教育は親の義務なんだ。勉強しなくては…

そうよ、家庭教育は親の義務なのよ重大責任ね!

(3) 家庭教育には父性機能と母性機能のバランスが大切

家庭の機能には、扶養、保育、社会化などがありますが、家庭教育は子どもの社会化（社会の一員としての成長）を図るものです。家庭教育が力を発揮するには、父性と母性がバランスよく備わっていることが大切です。（「父性」とは厳しさ・規律・鍛錬などの働きのことであり、「母性」とは、優しさ・受容・保護などの働きのこと、男女の性別をさすものではありません。）

しかし、最近は家庭の中に父性が欠けて、家庭の教育力が低下してきたと指摘されています。

父性が欠けると、子どもを、基本的な生活習慣が身につかない人間、社会のルールや最低限の礼儀が守れない人間、善悪のけじめがつけられない人間にしてしまう恐れがあります。

家庭教育においては、父性機能と母性機能をバランスよく備えることが大切です。



(4) 求められるお父さんの家庭教育参加

父性は必ずしもお父さんだけが担うべき働きとは限りませんし、母性をお父さんが担うべき場合もあります。

子育ては、決してお母さんだけの仕事ではありません。お父さんも同等に、ともに責任を分かち合う気持ちを持ちましょう。

子どもとかかわり、お母さんと協力し合って、家庭教育に参加することにより、お父さん自身にも新たな発見や体験があり、時には子どもの成長に感動することもあります。それは、お父さん自身の人間的な成長にもつながります。

【家庭教育についてさらに知りたい方のために】

○関係資料の情報については

電話 054-262-1244

静岡県立中央図書館レファレンス・サービス
(利用者が必要とする文献や参考図書についての情報を提供するサービス)

土・日・月・火は 9:00～17:00

水・木・金は 9:00～19:00

(祝日、毎月末、年末年始を除く)

インターネットによるレファレンス受付

<http://www.tosyokan.pref.shizuoka.jp>

○講座関係の情報については

電話 0537-24-9700(代表)

静岡県総合教育センター生涯学習情報コーナー

学習相談サービス

9:00～17:00

(第1・3日曜日、祝日、年末年始を除く)

インターネットによる学習相談受付

<http://www.shizuoka-c.ed.jp/manabi/>

(静岡県生涯学習情報検索ホームページ「マナビット21」)

○ふじのくに ゆうゆうnet

<http://www.fujiyuyu.net/>

○子育ての総合的な情報については

i-子育てネット(厚生労働省)

<http://www.i-kosodate.net/>